そのためドイツ指導部では、ドイツ国内で障碍者殺害のために使われていた別の手法を用いることが決定された。一一月初頭には、短時間で多くの人間を殺害することができる、常設の絶滅施設の建設が始まった。最初の絶滅施設は、ルブリン近郊のベウジェツに建設され、そこにT4作戦の専門家たちがやってきた。彼らは「安楽死」計画の中止後、「東部出動」のためにやってきたのだった。さらなる絶滅施設がウーチ近郊のヘウムノ（クルムホフ）につくられた。この二か所でユダヤ人は、T4作戦の手法、つまりガスによって殺されることになっていた。

ヒトラーや現地の責任者たちによる個々の申し合わせや決定は、厳格な機密保持のもと行われていた。だが、ヒトラー自身がこの件について、この時期に何度も詳しく述べている。一〇月二五日、彼はハイドリヒとヒムラーに、次のように言った。

「この犯罪者の人種〔ユダヤ人をさす〕は、〔第一次〕世界大戦では二〇〇万人〔ドイツ人軍人〕の死に責任があった。今度〔第二次世界大戦〕はふたたび、数十万人の死に責任がある。我々は彼らを沼沢地へと送り込むことはできない、などと誰も私に言ってはならない。それならいったい誰が我々の国民の心配をするのだ？　我々がユダヤ人を根絶するという恐怖が先立つのはよいことだ」[4]。

適切？

2 Hundertausend（単数）

そしてナチ党のイデオローグであるアルフレート・ローゼンベルクは、一九四一年一一月一八日、ジャーナリストを前にした演説で、こう述べている。

「東部ではまだ約六〇〇万人のユダヤ人が生きており、この問題はヨーロッパにおける全ユダヤ人の生物学的な除去によってのみ解決される」[5]。

一二月一二日、アメリカが参戦した翌日に、ヒトラーはナチ党の全国指導者や大管区指導者たちを前に次のように語っているが、ゲッベルスも書き留めているように、その趣旨はいつになく明確なものであった。

「ユダヤ人問題に関して総統は、ユダヤ人問題を片付けることを決断した。彼はユダヤ人にたいして、もし彼らが再び世界大戦を引き起こすことがあれば、彼らはそのさいみずからの絶滅を体験することになるだろうと予告した。これは空言ではない。世界大戦は起こったのであり、ユダヤ人の絶滅は、必然的な帰結でなければならない。この問題については、あらゆる情緒とは無縁に考えなければならない。我々はそのさいユダヤ人に同情するのではなく、ただ我々のドイツ民族に同情しなければならない。もしドイツ民族が今ふたたび東部の戦場で一六万人の犠牲を払ったのであれば、この血まみれの紛争を引き起こした張本人は、みずからの命をもってそれを贖わなければならない[6]」。

ていたのはハンガリーだけであった。〔一九四三年に〕枢軸から離脱したイタリアのように、ハンガリーがドイツとの同盟から離脱するのを防ぐため、一九四四年三月一九日、ドイツ軍部隊がハンガリーに侵攻し、同時に国家保安本部「ユダヤ人課」の課長アドルフ・アイヒマンは、職員たちとともにユダヤ人の移送準備を開始する。二ヶ月後の一九四四年五月一四日、最初の列車がアウシュヴィッツに向けて出発した。後の数週間は、毎日およそ一万二〇〇〇人のユダヤ人が当地へと移送され、七月中旬までにはあわせて四三万八〇〇〇人が移送された。そのうち三二万人は、到着後ただちにガスで殺された。

戦争中、暴力的に命を奪われたユダヤ人は、合計すると約五七〇万人に達する。第二次世界大戦中のドイツによる絶滅政策の全体像を、正確に見通すことは依然として不可能である。

五七〇万人のユダヤ人に加え、約二〇万人のシンティ・ロマ、少なくとも一〇〇万人に及ぶ非ユダヤ系のポーランド人民間人、約二八〇万人のソ連兵捕虜、約三〇〇万ないし四〇〇万人のソ連民間人、そして約五〇万人のドイツ占領地域およびドイツ本国における、それ以外の非ユダヤ系民間人が犠牲となった。つまり、合計すると、おおよそ一二〇〇万ないし一四〇〇万人の民間人が、戦闘行動以外でドイツの支配地域で命を落としたことになる。

【第一二章　註】

（1）Heydrich an Ribbentrop, 24.5.1940, PAA Inl. II g 177.

（2）Helmut Krausnick: Denkschrift Himmlers über die Behandlung der Fremdvölkischen im Osten, in: VfZ 5 (1957), S. 194-198.

（3）Funkspruch SS-Kavallerie Regiment 2, 1.8.1941. 以下に引用されている。Johannes Hürter: Hitlers Heerführer. Die deutschen Oberbefehlshaber im Krieg gegen die Sowjetunion 1941/42, München 2007, S. 558.

（4）Hitler am 25.10.1941, in: ADAP, Serie D, Bd. XIII, Anhang II, S. 835-837.〔イアン・カーショー前掲書（下巻）、五一七頁を参考にした〕

（5）Rede von Reichsminister Roscnberg anlässlich des Presseempfangs am Dienstag, 18. November 1941, 15.30 Uhr, im Sitzungssaal des Reichsministeriums für die besetzten Ostgebiete（Entwurf, vertraulich）; PAAA, R 105192 DIX 472.

（6）Joseph Goebbels: Eintrag vom 13.12.1941, in: ders., Die Tagebücher von Joseph Goebbels, hg. v. Elke Fröhlich, 32 Bde., München 1993-2008, Teil II, Bd. 2, S. 498 f.

（7）〔訳註〕現在のバルト三国および、ポーランド、ベラルーシの一部を含む地域。ソ連占領地域の

第三帝国

ある独裁の歴史

ウルリヒ・ヘルベルト

小野寺拓也 訳

ヒトラーは東欧をいかに改造したか？

統治の全貌が明らかに。

世界最高峰、最新研究に基づく入門書、

ついに邦訳！

角川新書 定価：本体1,000円（税別）